



『豊島タチウオ』の地理的表示（G I）登録について

呉豊島漁業協同組合は、『豊島タチウオ』のブランド価値を高める為、平成29年11月29日に農林水産省へ地理的表示登録（G I 登録）の申請を行い、この度、登録されることが決定しました。

1 G I 登録とは

正式名称は、地理的表示（G I : Geographical Indication）保護制度といい、地域で育まれた伝統を有し、その高い品質などが生産地と結びついている農林水産物の名称を、知的財産として保護する制度です。

世界では既に100か国以上が導入するとともに、日本では平成27年度から導入され、現在、夕張メロン、神戸ビーフ、下関ふくなど、全国で82製品が登録されていますが、『豊島タチウオ』は、今回同時に登録された「比婆牛」とともに広島県内では初の登録となります。

所管官庁は農林水産省食料産業局知的財産課です。

2 登録の効果について

登録されると、基準を満たすものだけが『豊島タチウオ』を名乗れ、G I マークの使用ができることに加えて、模造品を取り締まることで製品の信頼度が向上し、ブランド価値が高まります。

また、生産者は、産地の特性が明確になって、生産方法の共通化が図られます。

3 『豊島タチウオ』の登録手続きについて

平成29年11月29日 農林水産省へ登録申請（申請番号第150号）

平成30年10月9日 補正通知・補正申請

平成30年11月29日 現地調査

平成31年4月1日 公示

令和元年9月2日 学識経験者委員会

令和元年9月9日 G I 登録（登録番号第84号）

4 『豊島タチウオ』のG I 登録の概要

(1) 目的

- ① 品質の高いタチウオを、全国的に認知されるブランドにするため。
- ② 漁師が製品にプライドを持って、将来に渡り品質管理の徹底を図るため。

(2) 申請者

広島県呉市豊浜町豊島4136-22

呉豊島漁業協同組合 代表理事組合長 北田 國一

(3) 農林水産物等の名称

『豊島タチウオ』（トヨシマタチウオ）（toyoshima-tachiuo）

(4) 農林水産物の特性

『豊島タチウオ』の特性は、呉市豊浜町豊島の漁師が受け継いできた釣り漁法の技術の高さにより、銀白色に輝く「瀬戸の名刀」と呼ばれてきた外観の美しさにあります。

タチウオが一般的な魚と大きく違う点は、表面に鱗が無い代わりにグアニン質という銀粉の層で覆われ、簡単に剥がれ傷つきやすい特徴があります。

網漁法や、出荷までに乱雑に扱ったタチウオは、表皮が剥がれ鮮度が落ち、身の締まりが無くなり腹切れなどが起こるため、豊島の漁師は昔から網を使わず一匹ずつ釣り上げたタチウオを、船上で選別し箱詰め・氷締めにすることで鮮度管理を徹底してきました。

食味については、鮮度の高さから皮を剥いで刺身にしても、身が締まりコリコリしていて、特に秋から冬にかけては、重量感があり肉厚で、調理時に手に脂が付くほど脂がのっています。

『豊島タチウオ』は、その見た目の美しさ、鮮度の高さなどが評価され、広島市中央卸売市場において2〜3割高値で取引されています。

(5) 生産地としての実績

豊島の漁師の一本釣りは、元禄6年(1693年)より行われていた「アビ漁」に始まり、その後明治24年(1891年)頃からは、漁場を求めて寝室や台所を備えた家船（えぶね）と呼ばれる船で、遠くは対馬や五島列島、豊後水道などに出漁し、昭和5年(1930年)には、6県78漁場へ出漁していた記録があります。

家船生活は、一年の大半を出漁先で生活しながら、タチウオ、ふぐ、鯛など各漁場に合わせて魚を追い求めるもので、様々な漁場での豊富な知識や経験、船上での選別工程が活かされて、回遊するタチウオの群れを正確に探し漁獲するという釣り技術や鮮度管理技術の向上につながっています。

豊島の漁師がタチウオ釣りに転換したのは昭和30年頃で、昭和32年には4トンだったものが、昭和45年頃釣り糸を耐久性のあるワイヤーに変更し、これをモーターで巻き上げるといった画期的な道具の改良を行った事により、タチウオの漁獲量が一段と増加しました。これらは他県でも使用されるようになり、現在日本全国に普及しているタチウオ釣りの道具は、豊島の漁師が考案し改良したものです。

タチウオの漁獲量は、昭和45年(1970年)頃から増え、昭和48年は106トン、昭和55年(1980年)は1,962トンと増加し、同時期の昭和45年頃から発泡スチロール箱を使用するようになり、氷締めし高い鮮度を保持して出荷する現在の状態に至りました。

なお、平成17年に豊浜町と合併した呉市は、平成19年3月に『豊島タチウオ』のブランド化を掲げ、品質の高いタチウオによる地域振興を図るため、豊島漁港に大型製氷施設と荷さばき施設の整備を行い、平成21年8月以降は、タチウオは豊島漁港に水揚げし、呉豊島漁業協同組合が行う共同集出荷事業により出荷前の選別・確認を行っています。

近年の瀬戸内海の魚の減少と漁師の減少により、平成25年301トン、平成28年115トン、平成29年48トンと出荷量も厳しい状況ですが、新規漁業就業者の受入れも積極的にいき、県内外から若者が移住して来て後継者育成にも努めています。